



2017年3月期第2四半期 説明資料

株式会社 F F R I (東証マザーズ : 3692)
<http://www.ffri.jp>



会社概要

会社概要

会社名： 株式会社 F F R I (FFRI, Inc.)
所在地： 東京都渋谷区恵比寿1-18-18 東急不動産恵比寿ビル4階
役員： 代表取締役社長 鵜飼 裕司
取締役最高技術責任者 金居 良治
取締役最高財務責任者 田中 重樹
社外取締役（監査等委員） 下吹越 一孝
社外取締役（監査等委員） 高橋 郁夫
社外取締役（監査等委員） 松本 勉

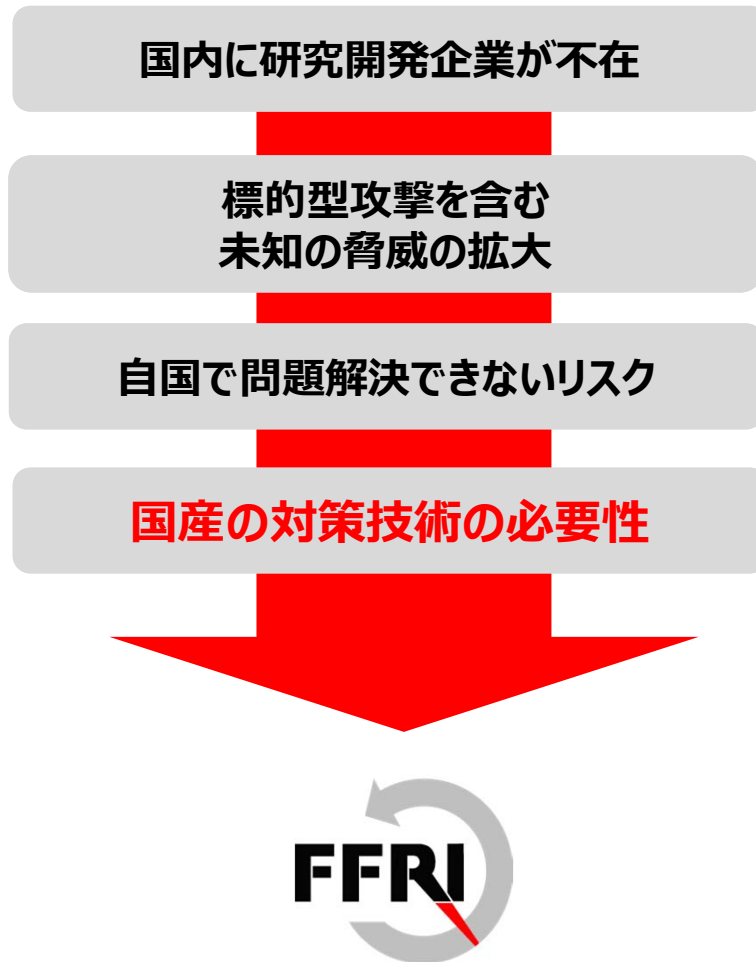
設立： 2007年7月3日

資本金： 280,746,100円（2016年10月31日現在）

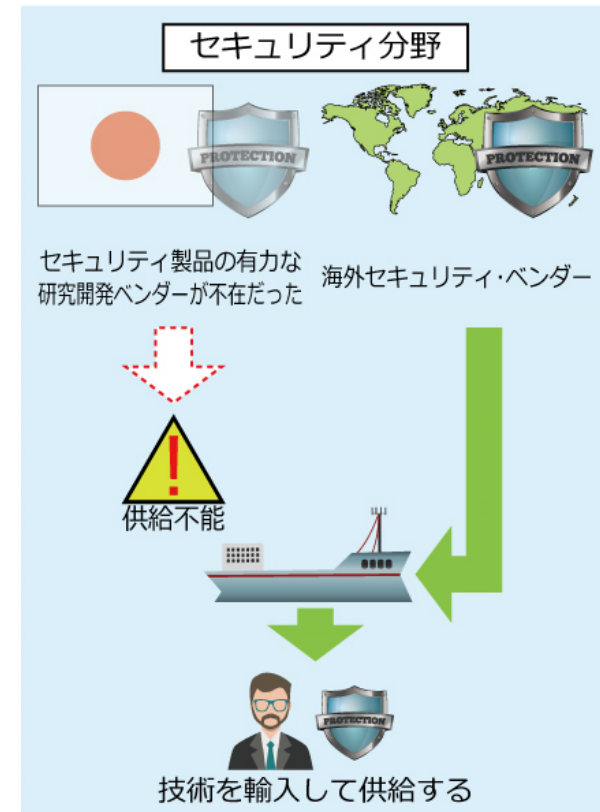
事業内容： 1. コンピュータセキュリティ研究、コンサルティング
2. ネットワークシステムの研究、コンサルティング、情報提供、教育
3. コンピュータソフトウェア及びコンピュータプログラムの企画、開発、販売、リース、保守、管理、運営及びこれらに関する著作権、出版権、特許権、実用新案権、商標権、意匠権等の財産権取得、譲渡、貸与及び管理
4. 上記事業に関連する一切の業務

2014年9月30日 東証マザーズ上場

設立の経緯



□ これまで日本は対策技術を海外からの輸入に頼っていた





社名とコーポレートマークに込めた思い

- 「FFRI」は、「**F**ourteen**f**orty **R**esearch **I**nstitute」の略称
- 「1440」は、スノーボード・ハーフパイプ競技におけるジャンプの回転数に由来
- 設立当時、4回転ジャンプできる競技者が存在せず、前人未到の領域への挑戦を志し、「1440（360°×4回転）」を社名に採用

Fourteenforty Research Institute



FFRI

コーポレートマークにも「1440」の文字とスノーボードの回転をイメージした矢印で、設立当初から変わらない「未踏の分野への挑戦」を表現



コーポレートマーク

世界トップレベルのセキュリティ・リサーチ・チームを作り、
コンピュータ社会の健全な運営に寄与する



業績説明

業績サマリー

- 売上高：主力製品のFFR yaraiの売上は前年同期比43.4%増、
FFR yarai analyzerで大口を含む複数の案件獲得、
個人向け製品による売上の上乗せにより前年同期比83.2%増

(単位：百万円)

区分	2016/3 2Q	2017/3 2Q	前年同期比 (%)
売上高	320	586	83.2
営業利益 (利益率：%)	△418 (-)	32 (5.5)	-
経常利益 (利益率：%)	△418 (-)	32 (5.6)	-
当期純利益 (利益率：%)	△317 (-)	29 (5.1)	-



業績サマリー（売上の内訳）

（単位：百万円）

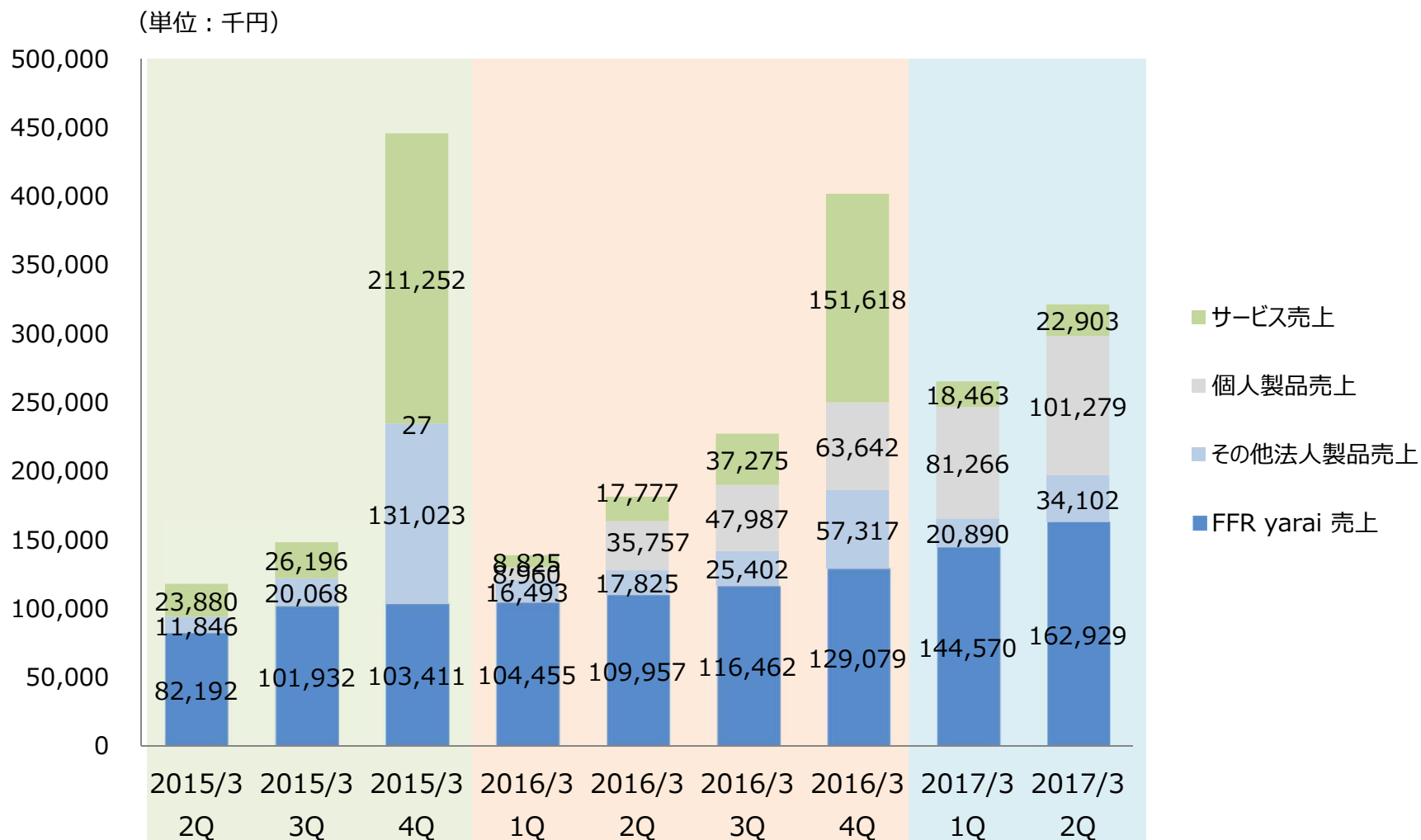
区分		2016/3 2Q	2017/3 2Q	前年 同期比 (%)
セキュリティ・ プロダクト	法人			
	継続売上	217	290	33.5
	新規売上	31	72	129.7
	個人	44	182	308.2
	小計	293	545	85.7
セキュリティ・サービス		26	41	55.5
合計		320	586	83.2

（注）継続売上について

当社の主な製品は、1年間利用可能なサブスクリプション契約が中心となっています。当社では前期以前に販売した既存契約から発生する売上及び既存契約が契約更新されることで発生する売上を継続売上として管理しております。

- 法人継続売上：前期までの積上げにより増加。
- 法人新規売上：FFR yaraiの販売増加、FFR yarai analyzerで大口案件獲得。
- 個人：主にAndroid端末向けのFFRI安心アプリチェッカーの販売増加。
- セキュリティ・サービス：IoT及び車載セキュリティに関する案件などのコンサルティングサービス等を提供完了。

区分別四半期会計期間毎の売上推移

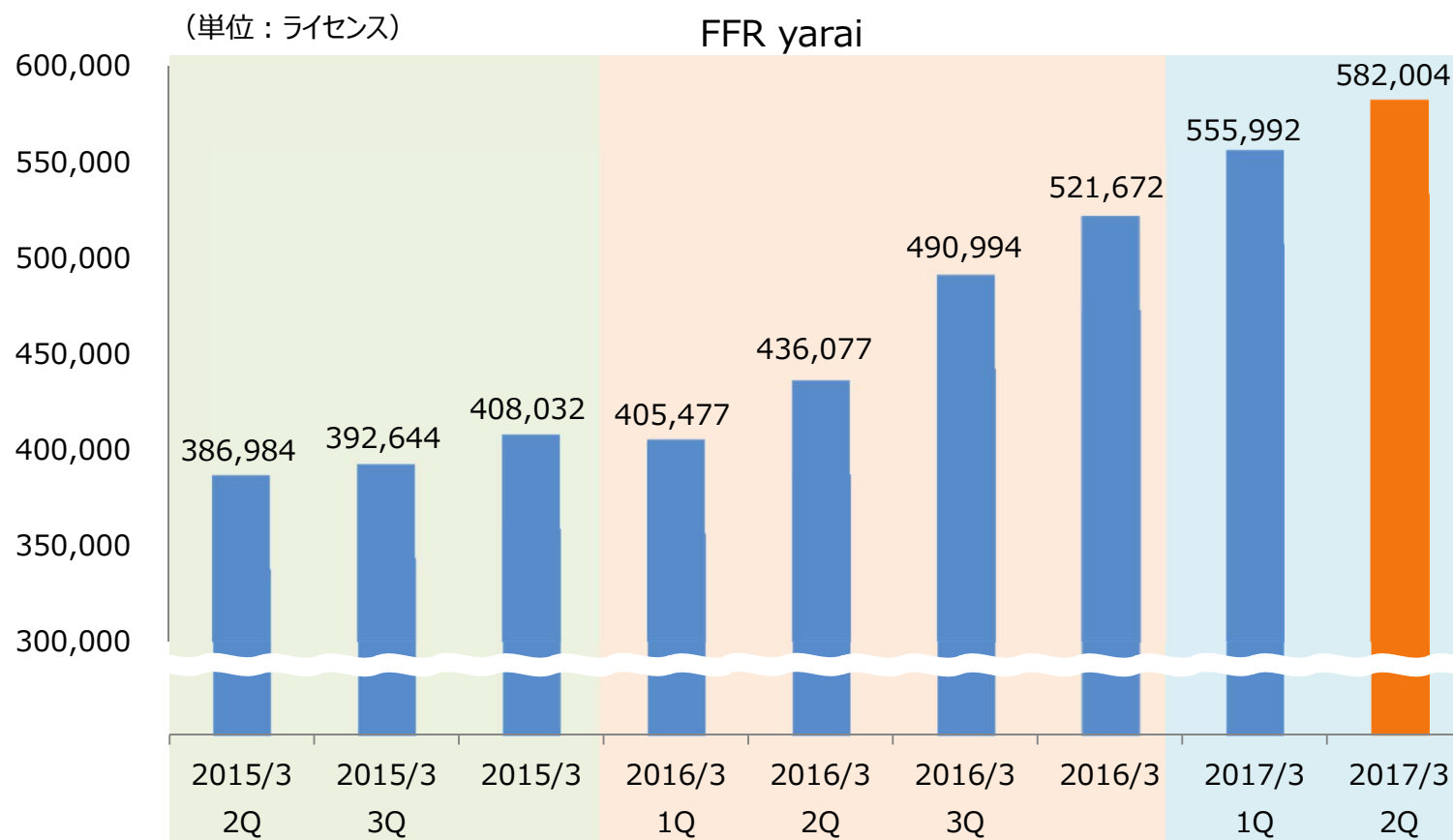


契約ライセンス数の推移 (FFR yarai)

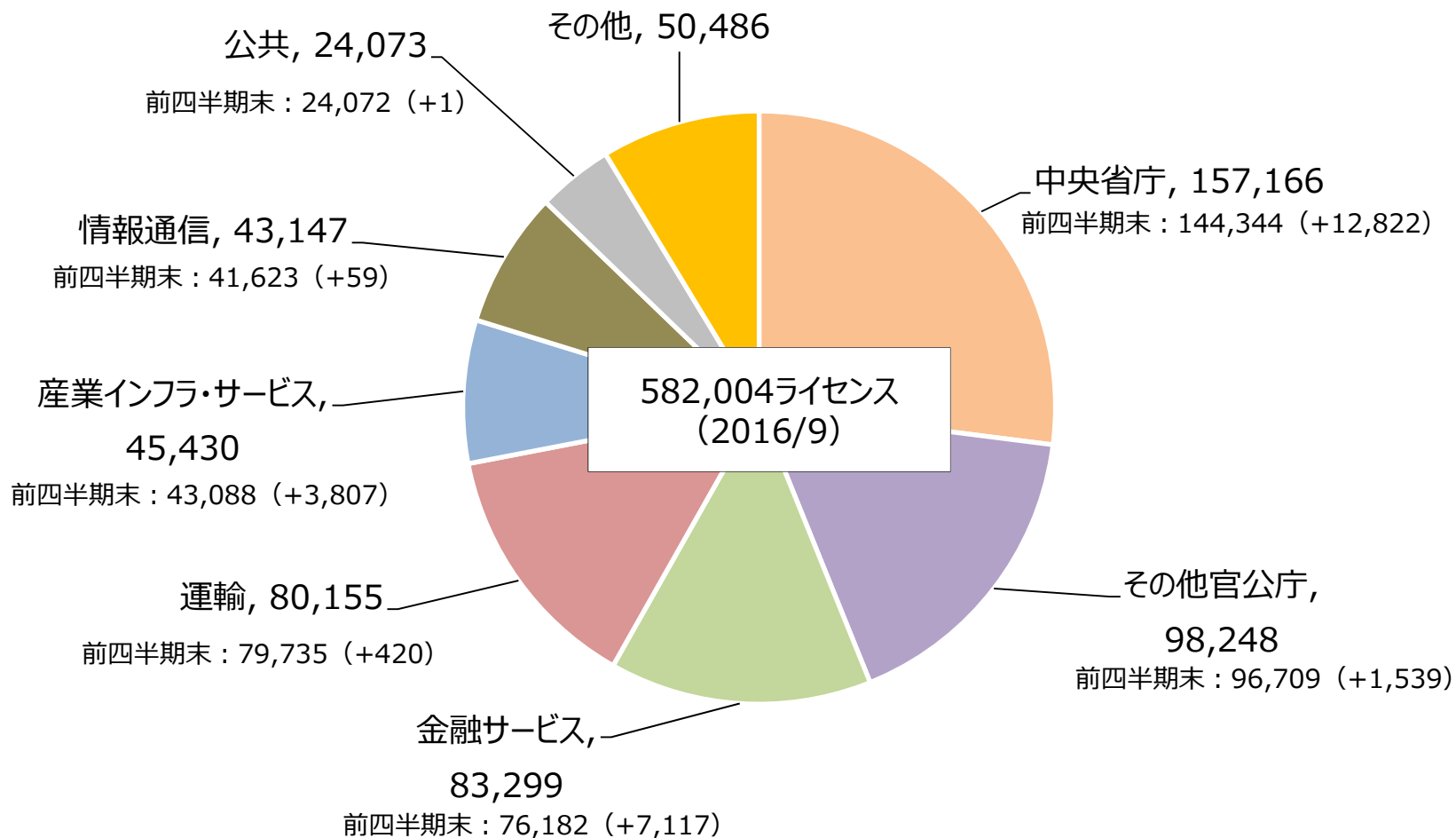
回次	契約ライセンス数 (ライセンス)	売上単価(注1) (円)
2013/3	149,148	995
2014/3	315,837	713
2015/3	408,032	940
2016/3	521,672	1,016
2017/3 2Q	582,004	1,100

- (注) 1. 売上単価は、当社の1ライセンスあたりの売上高に当たる金額です。
2. ボリュームディスカウントの価格体系を採用していることから、製品単価は大口案件の発生状況に影響されます。

四半期毎の契約ライセンス数推移



業種別契約ライセンス数



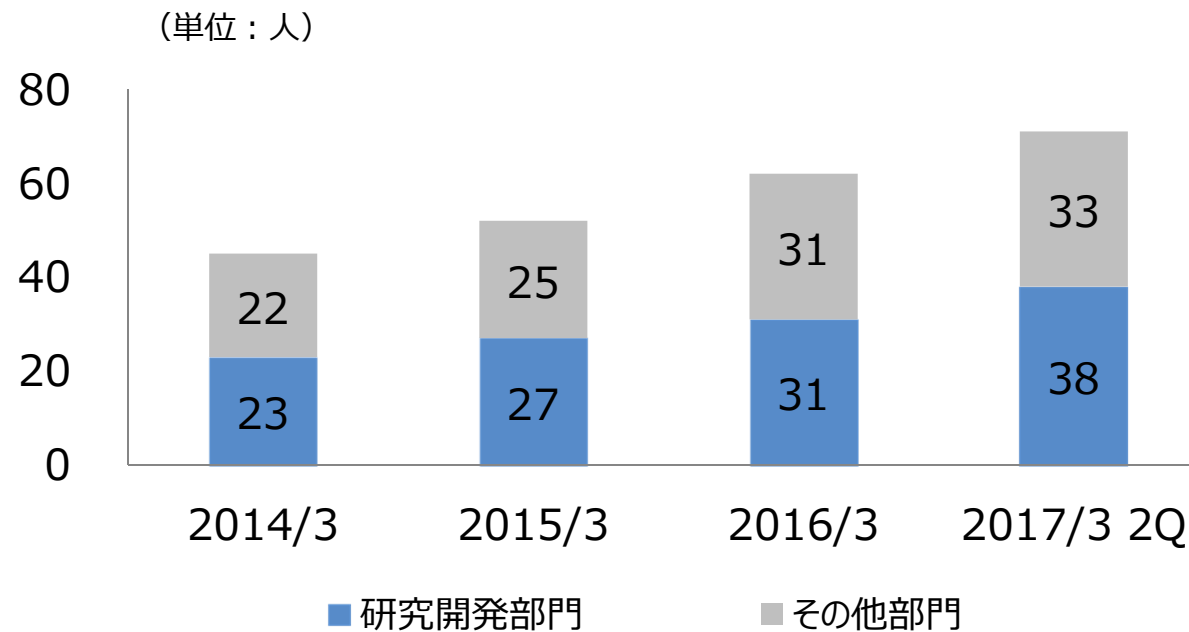
原価及び販管費の内訳

(単位：百万円)

費用の種類	2016/3 2Q	2017/3 2Q	前年同期比 (%)
労務費	103	107	3.2
経費	38	43	14.8
期首・期末棚卸及び 他勘定振替			
研究開発費への振替	△50	△59	—
ソフトウェアへの振替	△15	△2	—
その他の振替	△13	△4	—
売上原価合計	63	84	33.7
人件費	137	155	13.0
広告宣伝費	361	7	△97.9
研究開発費	50	61	23.0
販売手数料	29	141	372.9
その他	96	103	7.8
販管費合計	675	469	△30.5

- 労務費・人件費：技術人員を中心とする人材採用により増加。
- 研究開発費：IoT、車載セキュリティに関する研究を実施。
- 販売手数料：主に個人向け製品の販売に係る手数料。個人向け売上増加に伴い販売手数料も増加。
(個人向け売上に連動)

人員数の推移



業績サマリー（貸借対照表）

（単位：百万円）

区分	2016/3	2017/3 2Q	前年同期比 (%)
流動資産	951	1,407	47.9
現金及び預金	692	1,313	89.8
売掛金	168	53	△68.4
固定資産	128	116	△9.4
資産合計	1,079	1,523	41.1
流動負債	381	583	52.8
前受収益	320	495	54.9
固定負債	119	303	153.4
長期前受収益	108	292	169.3
負債合計	501	886	76.8
株主資本	578	636	10.1
利益剰余金	71	101	41.4
純資産合計	578	636	10.1
負債純資産合計	1,079	1,523	41.1

- 現金及び預金：主に製品の受注に伴う代金受領、売掛金回収により増加。
- 前受収益、長期前受収益：製品の受注の増加に伴う代金受領により増加。

業績サマリー (C/F)

(単位：百万円)

区分	2016/3 2Q	2017/3 2Q	前年同期 比 (%)
営業活動によるキャッシュ・フロー	△213	602	－
(内訳) 税引前当期純利益	△418	32	－
売上債権の増減額 (△は増加)	259	115	△55.5
前受収益の増減額 (△は減少)	91	175	92.1
長期前受収益の増減額 (△は減少)	△40	183	－
その他	△105	94	－
投資活動によるキャッシュ・フロー	△21	△9	－
財務活動によるキャッシュ・フロー	18	28	53.6
現金及び現金同等物の増減額	△217	621	－
現金及び現金同等物の期首残高	1,032	692	△33.0
現金及び現金同等物の四半期末残高	815	1,313	61.1

- 前受収益の増減額：主に製品の受注の増加に伴う代金受領により増加。
- 長期前受収益の増減額：官公庁を中心にFFR yarai等の複数年契約が増加。

当期の取組み

最近の脅威動向

攻撃から被害発生の短時間化
-エンドポイントで防御の必要性-



技術革新に伴う新たな脅威
-車載セキュリティのニース-



画像：走行中の自動車が高遠で乗っ取ることができると実証された

出典：arstechnica.com
<http://arstechnica.com/security/2015/07/fiat-chrysler-connected-car-bug-lets-hackers-take-over-jeep-remotely/>



当期の取組みと現在の状況

	取組み	現在の状況
法人	<p>法人向けFFR yaraiの拡販</p> <p>官公庁、大手企業の標的型攻撃対策導入余地は大きく、積極的な提案活動を継続。相次ぐサイバー攻撃や社会のIoT化などの環境変化で国家安全保障の観点から政府・官公庁においても対策の動きが活発化しており、この動きにあわせた活動を行う。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 大企業・中央省庁の案件が引き続き増加。 中堅企業及び官公庁の導入及び案件が増加。 月額版、マネージドサービス、アカデミックライセンスの提供開始。様々なユーザーのニーズに対応。
法人	<p>海外の販路開拓</p> <p>北米現地企業との連携</p>	<ul style="list-style-type: none"> 主に北米の販売店候補企業と交渉中。
個人	<p>個人向け製品の販売チャネル拡充</p>	<ul style="list-style-type: none"> 「FFRI安心アプリチェッカー」の販売拡大。 その他販売拡大に向けた施策の推進予定。
研究	<p>IoTセキュリティ分野、車載セキュリティ分野の研究開発</p>	<ul style="list-style-type: none"> パナソニック(株)とのIoT機器セキュリティに関する共同研究実施。 車載セキュリティに関する研究実施。 IoT及び車載セキュリティ関連案件の依頼が増加。

業績予想

(単位：百万円)

区分	2016/3 実績	2017/3 計画	前年 同期比 (%)	平成28年5月 13日発表 2017/3 修正前計画	2017/3 2Q実績
売上高	948	1,333	40.5	1,185	586
営業利益 (利益率：%)	△343 (-)	100 (7.5)	-	50 (4.2)	32 (5.5)
経常利益 (利益率：%)	△343 (-)	100 (7.5)	-	50 (4.2)	32 (5.6)
当期純利益 (利益率：%)	△341 (-)	69 (5.2)	-	34 (2.9)	29 (5.1)

業績予想 (売上の内訳)

(単位：百万円)

区分		2016/3 実績	2017/3 計画	前年同期比 (%)	平成28年5 月13日発表 2017/3 修正前計画	2017/3 2Q実績	
セキュリティ・ プロダクト	法人	継続売上	388	577	48.7	558	290
		新規売上	188	247	31.4	216	72
	個人	156	351	125.0	233	182	
	小計	733	1,176	60.4	1,009	545	
セキュリティ・サービス		215	156	△27.4	176	41	
合計		948	1,333	40.5	1,185	586	

(注) 継続売上について

当社の主な製品は、1年間利用可能なサブスクリプション契約が中心となっています。当社では前期以前に販売した既存契約から発生する売上及び既存契約が契約更新されることで発生する売上を継続売上として管理しております。

<本資料の取り扱いについて>

本資料に含まれる将来の見通しに関する記述等は、現時点における情報に基づき判断したものであり、マクロ経済動向及び市場環境や弊社に関連する業界動向、その他内部・外部要因等により変動する可能性があります。

従いまして、実際の業績が本資料に記載されている将来の見通しに関する記述等と異なるリスクや不確実性がありますことを、予めご了承ください。